

～夢アイデア企画～

- ・後継者を育てるまちづくり
 - ・「まち・ひと・しごと」という流れを基本とする
 - ・働きたいと思えるようなやりがいのある定住促進を図る
 - ・地域の魅力、再発見に取り組む事

- ・外国人と共存共栄できる地域づくり
 - ・日本で学んだ技能や知識を国際貢献はもとより地域貢献に役立てるものにする

 - ・地域の未来を描けるような日々行動されている地域づくりを目指そう

 - ・移民政策の根本的な大改革を実施する
 - ・希望者には永住権、日本国籍の付与など

～夢アイデア企画～

～「後継者を育てるまちづくり」～

～「外国人と共存共栄できる地域づくりを」～

1, 主旨

ロシアのウクライナ侵攻で、世界の小麦輸出の3割を占めるロシアとウクライナからの輸出が減少しているという事です。つまり小麦などの穀物価格が上昇し、日本にも多大な影響を与えるという報道が各専門家からの強い指摘を受けているのです。

そこで私は、地域活性化策として、例えば、果樹園、ワインづくりなどの後継者を継続していくまちづくりを望んでいます。また、今私の住む北海道の十勝地区にある大樹町では、宇宙基地構想を進めています。何もハイテクばかりが世界の勝ち組みではないと思います。

2, 具体的な対策

・外国人を受け入れて共存共生共栄できる社会に日本も向けていく事。既に居住外国人の住民投票を認めている自治体（神奈川の逗子市、大阪府の豊中市）はあります。まだ2つしかありませんが、いずれは外国人に来てもらう事につながると思います。

・いい加減な入管法ですが、日本は世界標準と比べても難民に認定される人数が圧倒的に少ないという事です。3年前の難民認定率データですが、日本は0.3%、ドイツは16%、アメリカ23%、カナダ51%、本当に桁違いなのです。これひとつとってもおぞいものです。只、単なる小手先の入管法改正でなく不法滞在も含めて抜本的な対策が必要だと思います。また政府は現在の留学生や技能実習生、特定技能というものを設けていますが、5年間で最大345000人の労働者を見込んでますが5年という就労期限があっても家族の滞在は認めていません。これでは誰の為の対策かが不透明だと思います。

3, 結論

・人を呼び、人を育てる地域リーダーの後継者育成づくり。

私の住む北海道ですが、三笠市では5年程前から調理師やパティシエを養成しております。何回か高校生レストランをオープンしています。また、旭川に近い江丹別ではブルーチーズ生産に取り組んでる方がいます。政府の地方創生と言われてから久しいですが、「まち・ひと・しごと」の具体的な戦略づくりが大切なのではないのでしょうか。それが地域の人口減少対策に結果的にはつながると思います。